

ホテルにない専門サービスで 旺盛な研修需要を取り込む

アクセスのよい都市型研修施設として好調なスタートを切ったクロス・ウェーブ幕張。コーディネーターによる一元サポートなどソフト面が受け一方、ヤマダ電機が一役買う充実したハード面も利用者から好評だ。

オリックスグループが展開する宿泊機能付き研修施設「クロス・ウェーブ」の事業が好調である。

昨年6月、研修専門施設として首都圏最大規模となる「クロス・ウェーブ府中」(東京)をオープン。1月には第1号施設である「同・船橋」(千葉)も全面リニューアルした。現在、東京・千葉・大阪で5施設を運営し、さらなる多施設展開を計画している。

バブルの頃、大手企業はこぞって自前の研修施設を持ち、社員研修などで利用していた。だが時代は変わった。所有施設を手放す企業が相次ぎ(クロス・ウェーブの一部は、そうした施設を買収して運営)、施設サービスを利用する傾向が強まる。それも地方のリゾート型施設よりも、交通アクセスのよい都市型施設への

ニーズが高まっている。

潜在ニーズの大きな新規事業を見出すことに長けるオリックスは、いち早く事業化に着手。96年に第1号の研修施設事業を立ち上げ、ここにきて事業拡大を加速しているのだ。

研修専門施設ならではの効率性

事業の好調さを象徴するのが、07年1月にオープンした「クロス・ウェーブ幕張」だ。幕張メッセを中心として大手企業の本社・事業所が集まる幕張新都心(千葉市美浜区)に位置し、東京駅から30分のJR海浜幕張駅に隣接する。

支配人の幾井英章氏は「船橋だけでは旺盛な申し込みをさばき切れず、新たに幕張をオープンした。幕張なら都内からも研修需要を呼び込め、

全国から人を集めて研修を行なうのにも適している」と話す。

研修室は、100人強を収容できるホールから10人前後で利用するミーティングルームまで全17室。また、

オリックスグループが手がける各種ホテルの事業ノウハウを生かした宿泊機能として、ホテルのようなロビー、ラウンジに96の客室、レストラン、宴会場などを備える。移動に時間をかけずに、落ち着いた環境で研修を行ないたいというニーズを見据えているのだ。

実際、利用の6割は都内に所在する企業とあって宿泊研修が多い。開業から1年余りが経過した現在、累計宿泊人数は2万人を突破。近隣企業に多い日帰り研修も含めると、その倍近い人を受け入れたことになる。「企業の採用活動や人材育成で利用してもらうことが多く、最近ではコンプライアンス関係のセミナーも目立つ」(幾井支配人)と、利用状況は昨今の情勢を表す。

クロス・ウェーブのように研修利用に特化し、外部の人を招くのにも適した環境を備える施設はそう多くない。

イベントの多い幕張にもシティホテルは数多くあるが、幾井支配人は「施設のコンセプトが異なるため、競合するのではなく共存共栄の道を探りたい」といい、双方の専門性をいかし、宿泊室の分宿や宴会ケータリングサービスをホテルに依頼する



左)シティホテル並みのゆったりとしたロビー
中央)研修室には最新設備が揃っている
右)クロス・ウェーブ幕張の幾井英章支配人

など、有益な関係を築こうとしている。

価格について、研修室はスクール形式なら60名を収容できる大研修室で、利用料金(9-18時)は12万円ほど。宿泊料金もビジネスホテル並みである。

また、利用企業に対して必ず1名の「コンファレンス・コーディネーター」が付き、研修室や食事、懇親会や宿泊のプラン作りからOA機器、備品の手配、内覧付き添いまでを、きめ細かく一元でコーディネートしている。利用企業は担当コーディネーターとだけ折衝すれば、準備のすべてが整うことから「研修専門施設ならではの、一元的な対応が喜ばれている」(幾井支配人)。

アドバイザーに徹するヤマダ

研修施設の要であるハード面も充実しているが、これにはヤマダ電機が一役買っている。

研修室があるフロアは全域で無線LANが使える、客室にも全室、有線LANが入っている。IT系企業の研修会も多く、どこでもPCが使える環境が求められるからだ。

しかも、「ビジネスサポートコーナー」ではインターネットに接続したパソコン3台が自由に使える、有償になるが複合機でプリント、コピーも行なえる。研修で使う配付資料のデータだけを持ち込み、その場で印刷する企業も多いという。

また、貸し出し機器としては、印刷物や固形物も投影できる書画カメラ内蔵タイプも含め、3000~3500ルーメンの最新プロジェクター7台を常設するほか、パソコン、レーザープリンター、デジタルムービー、テレビなどを取りそろえる。

さらに客室には、利用者がくつろげるよう32V型をはじめとした液晶テレビや空気清浄機などを配備している。

こうした機器の納入や設置工事を、主にヤマダ電機が担当しているわけだ。取引のきっかけは、貸し出し用のデジタルムービーを購入しようと、新聞折込チラシを見て問い合わせたこと。「量販店に法人営業があるのは意外だったが、熱心に何度も足を運んでくれた」(幾井支配人)。取引が発展したのは、ヤマダ電機がOA機器や家電製品の「アドバイザー」役に徹したからだろう。

幾井支配人は「OA機器や家電製品の進化は早い、我われは専門家ではない。コーディネーターもすべてを把握するのが難しく、ヤマダさんに相談できるのは心強い。メーカーと個別に取引せずとも、ヤマダさん

が一元的な窓口となってくれるのも便利」と話す。

ヤマダ電機船橋営業所の山崎和俊所長は「クロス・ウェーブさんが研修施設として最高レベルの環境を維持し、お客様に満足を与えられるよう、情報提供だけは欠かさないようしている」と話す。

その情報提供は随所で役立っているようだ。例えば、館内に設置された監視カメラシステムは、山崎所長がもたらした新製品情報で目にしたもの。専門業者に依頼しようとしていた矢先だったが、ヤマダに依頼したことでコストを抑えることができたのだ。配線の難しい既設建物への設置だったが、設備経験の豊富な山崎所長自らが陣頭指揮して工事を成功させた。

開業から1年余り。クロス・ウェーブ幕張では、リピーター顧客が急増しているという。それだけ、ソフト、ハードの両面が評価されているからだろう。

昨今の旺盛な研修需要を考えれば、伸びる余地はまだある。ますます、ヤマダ電機とのパートナーシップは深まりそうだ。

クロス・ウェーブ幕張への主な納入機器

防犯カメラシステム(BOXカメラ&レンズ、ドームカメラ、屋外用ハウジング、カメラ用電源ユニット、デジタルビデオレコーダー等)、32V型液晶テレビ、ビデオ一体型DVDレコーダー、カラーレーザープリンター、デジタルムービー、ファックス電話、プロジェクター、加湿器、空気清浄機、ズボンプレス、アイロン、ドライヤー、洗濯機用コインタイマー等



船橋営業所の山崎和俊所長